

一人一人が楽しく生き生きと 参加する学習をめざして

いわき市立平第三小学校教諭

吉田 聰

一、研究の主旨

本論文は、六十年度教職員研究論文入選作です。レディネス、興味、関心などの実態から適切な学習課題や学習形態に工夫が見られ、一人一人の児童に目を向け、個を生かす研究論文とし高い評価を得たものです。

解説

レポート

児童の実態を客観的に把握し、それに基づく課題設定や「ひとり学習」、「ペア学習」、「グループ学習」、「バスガイド学習」の学習形態の設定をしていくべき授業へと体質が改善され、一人一人に確かな力をつけることができる。

二、仮説

昨年の研究（教育論文入選）の成果は、複式指導過程に児童の実態に応じて学習形態を位置づけ、効果的な間接指導の確立であった。しかし、学習形態と密接に関わる「課題の設定や学習ステップの構成」などの研究が不足し、授業の体質改善までにはいたらなかった。「児童自らが主体的に考え正しく判断し、実践する」ためには一人一人の持つ能力を最大限に伸長するこれが前提であり、ここに、学習形態の位置づけや課題設定の工夫をすることによつて、低学年の児童でも学習の楽しさがわかり、確かな学力がつくのではないかと考えた。そのためには、目標分析に基づくレディネスの把握と課題設定、課題と学習形態の関連を継続的に分析・考察していく必要があると考え、次の仮説をもとに実践した。

- (一) 主体的学習と学習形態
- 各学習形態の決定はレディネスの程度に基づくが、学習が主体的に行なわれるようにするためには「学び方を学ぶ」ことが大切であることから、低学年の学習形態の基本として次のようにおさえた。
- ひとり学習……どんなことをしても自分の考えを創りあげる学習。
 - ペア学習……自分の考えと友達の考え方を結びつけて、さらによい考え方を創つたり、助け合つて仲よくすすめる学習。
 - グループ学習……友達の考えに自分の考え方を組みつけて、さらによい考え方をねらう手での決定。
 - バスガイド学習……だれかが司会に

課題設定、学習形態位置づけについての構想図

基本的考え方

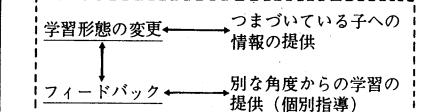
1. 目標分析をもとにその関連からレディネスを分析し、本時についての基礎能力の洗い出しを行う。
 2. 目標分析をもとに、そこからとられたレディネスとを考察し、課題設定にいたる演示実験や資料提示の活動を重視する。
 3. レディネスと目標分析でおさえた指導目標内容から、本時の学習形態の決定をする。

※ 児童のレディネスを明らかにする観点は、「学習指導の手引き」（県義務教育課編）P.37より3つの観点で行う。この時の基準は目標分析とする。

1. 単元の目標と密接な関連を持つ既習事項の達成はどうか。
2. 児童生徒が特に困難を示す事項は何か。
3. 児童生徒の興味、関心、経験はどんなところか。

1. レディネスの状況に応じて、課題設定に直結させるための資料提示のしかたや演示実験のしかたの決定。
 2. ひとり学習に結びつく反応の分析をし、拡散的な思考をねらう手での決定。
 3. 反応を分析、考慮した指導形態の位置づけ。

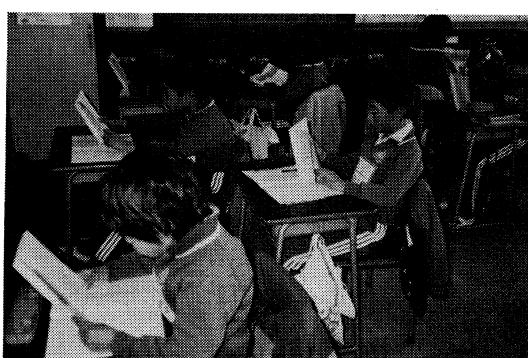
※ 学習課題に対する解決過程での形成的評価をするとともに、その学習形態を評価する。



体質を改善した児童中心の授業の展開とみがき合う授業

三、研究実践の概要

なつてすすめ、友達の考えも十分に話し合う学習。（バスガイド学習）ながら自分の考えも十分に話し合う学習。



学習形態の基本「ひとり学習」